

参考 2 事業調書

No	プロジェクト名	ページ
(1)	三遠南信交通ネットワーク形成プロジェクト	3
(2)	三遠南信圏民の一体感醸成プロジェクト	23
(3)	地域の稼ぐ力強化プロジェクト	38
(4)	三遠南信探訪プロジェクト	43
(5)	中山間地域が輝くプロジェクト	52
(6)	住むなら三遠南信プロジェクト	60
(7)	人生 100 年時代プロジェクト	71

具体的事業 No	(1)-I-1
名称	三遠南信広域交通ネットワークの構築（新）
重点プロジェクト	(1) 三遠南信交通ネットワーク形成プロジェクト
	I 交通ネットワークの主軸となる主要道路の整備促進や効果的な利用方法の検討
実施主体	SENA、39 市町村、3 県

1 目的

三遠南信地域内の主要な道路等について、地域全体の広域的な視点での機能や役割等の位置付けを再確認するため、鉄道や港と共に三遠南信広域交通ネットワークとして整理し共有することで、道路を軸とした人やものの交流促進のための計画づくりや事業促進を行う。

2 背景

三遠南信地域内の主要道路については、総合計画や都市計画マスタープラン等で、市町村ごとに位置付けがなされているが、三遠南信地域全体における広域的な視点での位置付けを示しているものがない。

3 事業内容

整備が進んでいる三遠南信自動車道を始め、東名高速道路や新東名高速道路、地域内を通る主要な国道のほか、計画中である浜松三ヶ日・豊橋道路等について、道路管理者、市町村の道路計画担当課といった関係者に対してのヒアリングや協議等を行い、三遠南信地域における位置付けの整理をしていく。最終的にリニア中央新幹線、東海道新幹線などの鉄道網や御前崎港、三河港等の港湾施設と共に、地域全体の広域交通ネットワークとして構築する。併せて三遠南信地域内で共通理解できるよう、HP で公開するなど情報発信を行い、活用を促す。

<対象とする道路（主なもの）>

三遠南信自動車道／浜松三ヶ日・豊橋道路／三遠伊勢連絡道路／中央自動車道／東名高速道路／新東名高速道路／中央自動車道／国道 1 号／国道 23 号／国道 150 号／国道 151 号／国道 152 号／国道 153 号

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	構築方針の検討
H31	2019	関係者へのヒアリング等実施、アウトライン作成
H32	2020	関係者との協議、構築、情報発信
H33	2021	構築したネットワークの情報発信
H34	2022	〃

具体的事業 No	(1)-I-2
名称	三遠南信自動車道及びこれと一体的に整備を進める一般国道の建設促進にかかるとの要望活動
重点プロジェクト	(1) 三遠南信交通ネットワーク形成プロジェクト
	I 交通ネットワークの主軸となる主要道路の整備促進や効果的な利用方法の検討
実施主体	三遠南信道路建設促進期成同盟会

1 目的

東三河地域、遠州地域及び南信州地域を結ぶ高規格な三遠南信自動車道の早期建設を促進する。

2 背景

長野・静岡県境付近は、高速 IC アクセス 60 分カバー圏域に達していない、また、事前通行規制区間が多く、災害時に連絡できる道路がないといった状況で、飯田市、浜松市などの都市間の速達性の向上、広域防災ネットワークの構築等が必要である。

3 事業内容

三遠南信自動車道及びこれと一体的に整備を進める一般国道の早期建設に向け、国土交通省等への要望活動を行う。

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	要望活動の実施
H31	2019	〃
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(1)-I-3
名称	三遠南信自動車道の建設促進にかかる要望活動
重点プロジェクト	(1) 三遠南信交通ネットワーク形成プロジェクト
	I 交通ネットワークの主軸となる主要道路の整備促進や効果的な利用方法の検討
実施主体	三遠南信自動車道早期開通期成同盟会

1 目的

三遠南信地域の交流促進、連携強化及び奥三河・北遠州・南信州地域への高速サービスの提供、災害に強い道路網の構築、地域医療サービスの向上、観光による交流人口の拡大と共に、これら地域の秩序ある開発、発展に寄与する三遠南信自動車道の早期建設に向けた要望活動を行う。

2 背景

三遠南信自動車道は、平成 29 年（2017 年）度より国直轄調査が始まった浜松三ヶ日・豊橋道路や、平成 39 年（2027 年）に東京・名古屋間で開業が予定されているリニア中央新幹線の長野県駅（仮称）と一体となり、東海道新幹線とリニア中央新幹線を結ぶ切れ目のない交通ネットワークを形成する重要な南北軸としての役割も大いに期待されていると共に、将来的には太平洋側と日本海側を結ぶ機軸になる道路と位置づけられ、地域経済発展のために必要不可欠なものとなっている。三遠南信地域の 54 商工会議所・商工会並びに 11 農業協同組合で構成。

3 事業内容

三遠南信サミットと同時開催する三遠南信地域経済開発協議会役員会にて、要望内容を協議・承認後、毎年 12 月に国土交通省・財務省へ、早期開通に向けた要望活動を行う。

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	要望活動の実施
H31	2019	〃
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(1)-I-4
名称	三遠南信自動車道及び浜松三ヶ日・豊橋道路の建設促進にかかる要望活動
重点プロジェクト	(1) 三遠南信交通ネットワーク形成プロジェクト
	I 交通ネットワークの主軸となる主要道路の整備促進や効果的な利用方法の検討
実施主体	三遠南信、浜松三ヶ日・豊橋道路建設促進議員協議会

1 目的

三遠南信、浜松三ヶ日・豊橋道路の早期建設を強力に促進し、関係地域の振興発展と住民福祉の向上のために積極的な活動を行う。

2 背景

三遠南信、浜松三ヶ日・豊橋道路建設促進議員協議会を平成 20 年（2008 年）度に浜松市・豊橋市・飯田市の 3 市で立ち上げた。平成 22 年（2010 年）度以降関係地域市町村の賛同議員も加入し、合計 38 市町村の賛同議員が加入している。

3 事業内容

三遠南信地域の交流促進、連携強化及び奥三河・北遠州・南信州地域への高速サービスの提供、災害に強い道路網の構築、地域医療サービスの向上と共に、これら地域の秩序ある開発、発展に寄与する三遠南信自動車道及び浜松三ヶ日・豊橋道路の早期建設に向けた要望活動を行う。

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	要望活動の実施
H31	2019	〃
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(1)-I-5
名称	一般国道 151 号（飯田～豊橋）の整備促進にかかる要望活動
重点プロジェクト	(1) 三遠南信交通ネットワーク形成プロジェクト
	I 交通ネットワークの主軸となる主要道路の整備促進や効果的な利用方法の検討
実施主体	一般国道 151 号（飯田～豊橋）改良促進期成同盟会

1 目的

一般国道 151 号の整備促進により、南信州地域と東三河地域との連携や交流を促進し、観光、産業、経済の発展と住民の安全、安心な生活を確保する。また、東名高速道路、新東名高速道路、三遠南信自動車道、さらにはリニア中央新幹線の長野県駅（仮称）へのアクセス道路としての機能を確保する。

2 背景

一般国道 151 号は、飯田市を起点に長野県、愛知県の山間部を経由し、豊川市を経て豊橋市に至る重要な幹線道路であるが、都市部では慢性的な交通渋滞が発生し、山間部では幅員が狭くカーブの連続する区間が多い。

3 事業内容

南信州地域と東三河地域の円滑な交通ネットワークを形成するため、国道 151 号の整備促進を目指した要望活動を行う。

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	要望活動の実施
H31	2019	〃
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(1)-II-1
名称	リニア中央新幹線の早期開通に向けた事業の推進への協力と支援
重点プロジェクト	(1) 三遠南信交通ネットワーク形成プロジェクト
	II リニア中央新幹線と既存公共交通・道路網との効率的な接続の推進
実施主体	リニア中央新幹線建設促進飯伊地区期成同盟会

1 目的

リニア中央新幹線の早期開通に向けた事業の推進に協力し支援する。

2 背景

21世紀の重要な国家的プロジェクトであるリニア中央新幹線により飯田下伊那地域と三大都市圏間が短時間で結ばれるようになることから、産業振興や交流人口の拡大等を通じて地域活性化の大きな飛躍が期待されている。

リニア中央新幹線の整備効果を伊那谷全体や三遠南信地域全体へ波及させるためには、市町村や観光地等とのアクセス性、利便性を高め、地域特性を活かした独自性と先進性の高い戦略的な地域づくりを積極的に展開していくことが重要である。

3 事業内容

リニア中央新幹線開業を見据えたまちづくりのための講演会を開催する。リニア中央新幹線に関する各種啓発活動を実施する。

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	講演会の開催、啓発グッズの作成
H31	2019	〃
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(1)-II-2
名称	一般国道 153 号の整備促進にかかる要望活動
重点プロジェクト	(1) 三遠南信交通ネットワーク形成プロジェクト
	II リニア中央新幹線と既存公共交通・道路網との効率的な接続の推進
実施主体	一般国道 153 号改良期成同盟会

1 目的

一般国道 153 号の整備促進により中京圏と広域的な経済・文化圏を形成し、沿線地域の住民生活の安定と向上を図ると共に、リニア中央新幹線の長野県駅（仮称）のアクセス道路としての機能を確保する。

2 背景

一般国道 153 号は、中京圏と長野県中信地域を結ぶ重要な幹線道路であり、全国的なネットワークを形成する中央自動車道の代替機能を有し、今後発生が予想される南海トラフ地震等をはじめとする大規模災害時の緊急輸送路としても重要な路線となっている。さらに、リニア中央新幹線の長野県駅（仮称）へのアクセス道路としても大きな役割を果たすことが期待される。

3 事業内容

リニア中央新幹線の長野県駅（仮称）へのアクセス道路として、国、県等へ国道 153 号の整備促進を目指した要望活動を行う。

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	要望活動の実施
H31	2019	〃
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(1)-II-3
名称	一般国道 153 号伊駒アルプスロードの建設促進にかかる要望活動
重点プロジェクト	(1) 三遠南信交通ネットワーク形成プロジェクト
	II リニア中央新幹線と既存公共交通・道路網との効率的な接続の推進
実施主体	一般国道 153 号伊駒アルプスロード整備促進期成同盟会

1 目的

駒ヶ根市北の原から伊那市青島までの一般国道 153 号伊駒アルプスロードの沿線市町村が緊密に連携し、整備促進を図る。

2 背景

一般国道 153 号は渋滞等の交通課題があり、地域経済活動に支障をきたしている。

伊南バイパス、伊那バイパスの整備が進められており、これに接続する中抜け区間を伊駒アルプスロードとして整備することで、道路ネットワーク全体の交通機能が向上する。

また、平成 39 年（2027 年）開業のリニア中央新幹線長野県駅（仮称）に直結する一般国道 153 号は重要であり、リニア整備効果を広く波及させるため、早期の道路整備が求められている。

3 事業内容

- ・事業促進に関する活動及び調査研究
- ・関係機関及び会員相互の連絡調整
- ・その他目的達成に必要な事業

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	要望活動の実施
H31	2019	〃
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(1)-II-4
名称	一般国道 153 号伊那バイパスの建設促進にかかる要望活動
重点プロジェクト	(1) 三遠南信交通ネットワーク形成プロジェクト
	II リニア中央新幹線と既存公共交通・道路網との効率的な接続の推進
実施主体	一般国道 153 号伊那バイパス促進期成同盟会

1 目的

一般国道 153 号伊那バイパスの沿線市町村が連携し、整備促進を図る。

2 背景

一般国道 153 号は市街地及びその周辺地域で慢性的な渋滞が発生しており、円滑な交通、地域経済活動に支障をきたしている。このため、交通混雑の解消、円滑な走行性の確保のため、バイパス道路の整備が進められている。

平成 39 年（2027 年）開業のリニア中央新幹線長野県駅（仮称）に直結する一般国道 153 号は重要であり、リニア整備効果を広く波及させるため、早期の道路整備が求められている。

3 事業内容

- ・事業促進に関する活動及び調査研究
- ・関係機関及び会員相互の連絡調整
- ・その他目的達成に必要な事業

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	要望活動の実施
H31	2019	〃
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(1)-II-5
名称	一般国道 153 号飯田南道路（飯田南バイパス）の整備促進にかかる要望活動
重点プロジェクト	(1) 三遠南信交通ネットワーク形成プロジェクト
	II リニア中央新幹線と既存公共交通・道路網との効率的な接続の推進
実施主体	国道 153 号飯田南バイパス整備促進期成同盟会

1 目的

飯田南道路（飯田南バイパス）の整備促進により、飯田 IC 付近の慢性的な交通渋滞を解消するのみでなく、飯田市都市環状道路 羽場大瀬木線（平成 31 年（2019 年）開通予定）と接続し、三遠南信自動車道の飯田山本 IC からリニア中央新幹線の長野県駅（仮称）へのアクセス道路としての機能を確保する。

2 背景

一般国道 153 号の飯田市山本地区から伊賀良地区に至る区間は、道路幅員が狭く、朝夕の通勤通学の時間帯を中心に慢性的な交通渋滞が発生すると共に、歩道のない区間もあり、小中学校の通学路であることも含め、住民生活の安全確保に大きな支障をきたしている。

3 事業内容

リニア中央新幹線の長野県駅（仮称）へのアクセス道路として、国等へ国道 153 号飯田南道路（飯田南バイパス）の早期ルート確定や早期事業化を目指した要望活動を行う。

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	要望活動の実施
H31	2019	〃
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(1)-II-6
名称	リニア中央新幹線整備を地域振興に活かす伊那谷自治体会議の開催
重点プロジェクト	(1) 三遠南信交通ネットワーク形成プロジェクト
	II リニア中央新幹線と既存公共交通・道路網との効率的な接続の推進
実施主体	長野県、関係市町村

1 目的

リニア中央新幹線の整備効果を南信州地域の広域的な地域振興につなげ、伊那谷全体の発展を目指す。

2 背景

リニア中央新幹線の整備効果を伊那谷地域に広く波及させるために、長野県と関係市町村がリニア長野県駅（仮称）の周辺整備やまちづくり、観光など地域振興に係る広域的な課題に関する情報の共有と共に内容を議論する場が必要であった。

3 事業内容

長野県と関係市町村による会議を開催し、「リニアバレー構想」※の実現に向けた検討を行う。

- ・伊那谷地域の二次交通の形成・機能強化
- ・リニアを契機としたまちづくり、地域振興策
- ・リニア長野県駅（仮称）の周辺整備 等

※リニア長野県駅（仮称）の駅勢圏である「伊那谷交流圏」の目指す将来像を描いたもの。
平成 28 年（2016 年）2 月に策定。

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	伊那谷における広域的な地域振興策の検討
H31	2019	〃
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(1)-Ⅲ-1
名称	浜松三ヶ日・豊橋道路の建設促進にかかる要望活動
重点プロジェクト	(1) 三遠南信交通ネットワーク形成プロジェクト
	Ⅲ 三遠地域を牽引する道路網の整備の促進
実施主体	浜松三ヶ日・豊橋道路建設促進期成同盟会

1 目的

浜松三ヶ日・豊橋道路の早期実現を図る。

2 背景

浜松三ヶ日・豊橋道路は、新東名高速道路、名豊道路、三遠南信自動車道と一体となり、広域幹線ネットワークを形成するものであり、三河港を含む物流機能の向上により地域産業を振興させ、国際競争力の強化に資すると共に、地域防災力を高め大規模災害等への備えとなる、強靱な国づくりに資する非常に重要な路線である。

3 事業内容

三遠地域の行政、経済界が一体となり、速やかに調査を進め、浜松三ヶ日・豊橋道路の早期実現が図られるよう要望活動を行う。また講演会や勉強会等の開催により情報発信や早期事業化を期待する地域の声を集約する。

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	要望活動の実施、講演会・勉強会の開催
H31	2019	〃
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(1)-Ⅲ-2
名称	東三河縦貫道路の建設促進にかかる要望活動
重点プロジェクト	(1) 三遠南信交通ネットワーク形成プロジェクト
	Ⅲ 三遠地域を牽引する道路網の整備の促進
実施主体	東三河縦貫道路建設促進期成同盟会

1 目的

「東三河 1 時間交通圏」の確立を目指すため、東三河縦貫道路（軸）の整備促進を図る。

2 背景

東三河地域では、8 市町村が一体となり「東三河はひとつ」を合言葉に、それぞれの市町村の特長を生かしながら広域連携の強化に努めている。

広域的な幹線道路網のあり方を大きく 3 つのテーマ“力の道”“命の道”“絆の道”から研究成果を取りまとめ、東三河地域の道路網として「東三河 1 時間交通圏」の確立を提唱している。

その大きな柱となる東三河縦貫道路（縦貫軸）は、東名高速道路、新東名高速道路、三遠南信自動車道を始めとする高規格幹線道路等と一体となって、地域の骨格道路を形成するものである。

3 事業内容

官民一体となってそれぞれの市町村の特長を生かしながら東三河縦貫道路の早期整備に向けた要望活動を行う。

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	要望活動の実施
H31	2019	〃
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(1)-Ⅲ-3
名称	名豊道路の建設促進にかかる要望活動
重点プロジェクト	(1) 三遠南信交通ネットワーク形成プロジェクト
	Ⅲ 三遠地域を牽引する道路網の整備の促進
実施主体	名豊道路建設推進協議会

1 目的

名豊道路の早期全線開通及び全線 4 車線化に向け建設推進を図る。

2 背景

自動車関連産業を核に高度な産業集積を誇る、わが国を代表するモノづくり地域を貫き、港湾・空港等重要な拠点へのアクセス道路として、交通・物流を支え、また、地域の安心・安全を確保し、三河港に面した観光地の活性化と地場産業の振興に寄与すると共に、高速道路、国土軸への広域アクセス機能を持つ重要路線であり、地域の発展のみならず、わが国の経済成長に欠くことのできない道路である。

3 事業内容

8 市 1 町が一体となり名豊道路の早期全線開通及び全線 4 車線化を目指した要望活動を行う。

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	要望活動の実施
H31	2019	〃
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(1)-Ⅲ-4
名称	国道 23 号蒲郡バイパスの建設促進にかかる要望活動
重点プロジェクト	(1) 三遠南信交通ネットワーク形成プロジェクト
	Ⅲ 三遠地域を牽引する道路網の整備の促進
実施主体	国道 23 号蒲郡バイパス建設促進協議会

1 目的

相互の連携を密にし、国道 23 号のうち蒲郡バイパス（幸田町から豊川市まで）区間の建設促進を図る。

2 背景

国道 23 号蒲郡バイパスは、名古屋港、衣浦港、三河港及び中部国際空港など重要な拠点へのアクセス道路として、交通・物流を支援し、また、名古屋、豊橋間の地域連携と交流を促進する名豊道路の一部として計画され、東は豊橋バイパス、西は岡崎バイパスと接続する延長 15km のバイパスで、平成 25 年（2013 年）度までに、蒲郡 IC～幸田芦谷 IC 間の延長 5.9km を暫定 2 車線で開通し、豊川為当 IC～蒲郡 IC 間の延長 9.1km については、平成 19 年（2007 年）度に事業化され、暫定 2 車線の整備を進めている。

3 事業内容

豊川市、蒲郡市及び幸田町並びに賛同する団体で組織する国道 23 号蒲郡バイパス建設促進協議会により、国道 23 号蒲郡バイパスの早期建設を目指した要望活動を行う。

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	要望活動の実施
H31	2019	〃
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(1)-Ⅲ-5
名称	浜松地域 国道1号の整備促進にかかる要望活動
重点プロジェクト	(1) 三遠南信交通ネットワーク形成プロジェクト
	Ⅲ 三遠地域を牽引する道路網の整備の促進
実施主体	国道1号浜松バイパス道路整備促進期成同盟会 浜松地域国道1号整備促進期成同盟会

1 目的

国道1号の慢性的な渋滞の緩和や交通事故の削減に向けた道路整備促進のため、要望活動を行う。

2 背景

国道1号（磐田バイパス～潮見バイパス）の一部区間では、渋滞が慢性化し、渋滞に起因する交通事故が発生しているため、国道1号の機能強化が市民及び全国の道路利用者等から求められている。

3 事業内容

国道1号（磐田バイパス～潮見バイパス）の慢性的な渋滞の緩和や交通事故の削減に向け、道路整備が促進されるよう要望活動を行う。

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	要望活動の実施
H31	2019	〃
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(1)-IV-1
名称	三河港の整備促進及び利用促進事業
重点プロジェクト	(1) 三遠南信交通ネットワーク形成プロジェクト
	IV 三河港・御前崎港の整備・利用促進
実施主体	三河港振興会

1 目的

三河港の総合的な発展及び地域産業の振興発展のため、三河港の港湾機能の整備促進、施設及び運営の円滑化と充実を図る。

2 背景

三河港は、日本の中央に位置する物流拠点であり、日本の「ものづくり」産業の競争力や生産性を支える重要な港湾である。今後も港湾利用者のニーズに応え、港湾関係車両の円滑な交通の確保や増大する完成自動車の取扱い、船舶の大型化やクルーズ船の寄港への対応のため、臨港道路や岸壁の整備などが必要である。

3 事業内容

三河港の整備促進に向けた要望活動やポートセールス活動、インセンティブ制度の実施、パンフレットの発行などを行う。

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	港湾計画改訂に向けた調査、要望活動の実施、ポートセールス活動の実施、インセンティブ制度の実施
H31	2019	港湾計画改訂に向けた調査・提言、要望活動の実施、ポートセールス活動の実施、インセンティブ制度の実施
H32	2020	要望活動の実施、ポートセールス活動の実施、インセンティブ制度の実施
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(1)-IV-2
名称	愛知県港湾整備促進事業
重点プロジェクト	(1) 三遠南信交通ネットワーク形成プロジェクト
	IV 三河港・御前崎港の整備・利用促進
実施主体	愛知県港湾経済連合会

1 目的

国際拠点港湾である名古屋港をはじめ、重点港湾である衣浦港、三河港、地方港湾である常滑港の施設整備並びに利用促進を図る。

2 背景

激しくなる国際・地域間競争時代への適切な対応を図り、愛知県がより一層力強く発展していくため、県内の港湾施設や関連道路の更なる強化が不可欠である。

3 事業内容

名古屋港、衣浦港、三河港、常滑港に関連する商工会議所、商工会等の団体が一体となり、港湾の施設整備、利用促進が図られるよう、力強い要望活動を行う。また、勉強会や講演会の開催により関連する幹線道路等の活用や県内港湾の連携による物流効率化等について研究する。

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	要望活動の実施、勉強会や講演会の開催
H31	2019	〃
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(1)-IV-3
名称	御前崎港客船誘致事業
重点プロジェクト	(1) 三遠南信交通ネットワーク形成プロジェクト
	IV 三河港・御前崎港の整備・利用促進
実施主体	御前崎港客船誘致協議会

1 目的

御前崎港における客船文化の創造を図り、御前崎港の新たな魅力の発信と周辺地域と一体となった地域振興及び観光振興に寄与する。

2 背景

これまで御前崎港には帆船「海王丸」等の寄港実績はあるが、大型のクルーズ船の寄港実績はない。静岡県内では平成 26 年（2014 年）頃から清水港を中心にクルーズ客船の寄港が増えてきていることから、御前崎港でもクルーズ振興と地元への経済波及効果の拡大等を目指す。

3 事業内容

御前崎港の新たな魅力の発信と周辺地域と一体となった地域振興及び観光振興を目的としたクルーズ客船や帆船の誘致活動や、クルーズ客船、帆船寄港時の寄港歓迎事業を行う。

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	クルーズ客船、帆船の誘致活動及び寄港歓迎事業の実施
H31	2019	〃
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(1)-IV-4
名称	御前崎港の整備促進事業
重点プロジェクト	(1)三遠南信交通ネットワーク形成プロジェクト
	IV三河港・御前崎港の整備・利用促進
実施主体	御前崎港整備促進期成同盟会

1 目的

御前崎港の整備を促進し、静岡県中・西部における産業・物流・防災拠点としての物資の円滑なる流通を図ると共に、地域住民の福祉増進並びに地域産業の振興に寄与する。

2 背景

御前崎港は、自動車産業を基盤とした静岡県中、西部地域のものづくり産業を支える物流拠点として必要不可欠な社会インフラとなっている。周辺地域では、富士山静岡空港、新東名高速道路等のネットワークを活用した産業・観光振興、ひいては今後の地域経済の発展を目指すうえで、本港に寄せられる期待はますます高まっている。

3 事業内容

御前崎港の整備を促進し、県中西部における産業・物流拠点としての物資の円滑なる流通をはかると共に、地域住民の福祉増進並びに地域産業の振興に寄与するため、御前崎港の整備促進に向けた要望活動等を行う。

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	御前崎港活用に係る調査・研究、要望活動の実施
H31	2019	〃
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(2)-I-1
名称	三遠南信プロモーション（新）
重点プロジェクト	(2)三遠南信圏民の一体感醸成プロジェクト
	I メディアや広報紙、SNS を活用した地域内情報の共有・浸透
実施主体	SENA

1 目的

三遠南信地域の「県境を越えた地域連携や地域間交流」、「一体的な圏域の発展を目指すための様々な事業・取組」、「各地域の魅力」等を地域内外に PR する。

2 背景

平成 20 年（2008 年）に三遠南信地域連携ビジョンを策定し、地域連携事業や地域間交流を図ってきた。それらの事業・取組などをホームページや SNS 等を活用し、発信してきたが、圏域外はもとより、圏域内の人々への訴求も十分ではないため、効果的なプロモーションが必要である。

◆SENA 発信ツール（H30（2018）.5 現在）

- ・SENA ホームページ（8,977 ビュー） ・SENA Facebook（6,916）
- ・三遠南信ロードマップ（22,500 部） ・三遠南信地域特産品ガイド（10,318 ビュー） 等

3 事業内容

現状の SENNA 発信ツールと合わせて効果的な PR を実施するため、以下事業を実施する。

- ・メディアの活用
経費を最小限に抑えた効果的なプロモーションを実施するため、各自治体が有する「ラジオ」、「ケーブルテレビ」枠等を活用したメディアプロモーション。
- ・イベント出展
地域内の人々の認知度向上のため、圏域で開催されるイベントへの「SENA ブース」出展や SENNA 構成員自治体ブースを活用した PR 等を行う。
- ・SENA 動画作成
地域内外の人々に三遠南信地域の魅力を訴求する動画を作成し、ホームページや SNS、YouTube に掲載するほか、各種イベントでの放映等を行う。
- ・公共交通機関への広告掲載
地域内の多くの人々が通勤・通学等で利用し、訴求効果の高い地域内の電車・バスの中刷り広告や駅・バス停でのポスター広告の掲載等を行う。
- ・その他
上記の他、効果的なプロモーションについての研究や実施に向けた検討を行う。

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	プロモーション内容の検討、一部実施
H31	2019	〃
H32	2020	プロモーションの実施
H33	2021	〃
H34	2022	プロモーションの実施、プロモーション成果の把握

具体的事業 No	(2)-I-2
名称	三遠南信地域の特産品等の情報発信
重点プロジェクト	(2) 三遠南信圏民の一体感醸成プロジェクト
	I メディアや広報紙、SNS を活用した地域内情報の共有・浸透
実施主体	SENA

1 目的

三遠南信地域の特産品の販路拡大、地域の知名度の向上とファン拡大を目的として、地域に育まれた特産品の情報及び特産品を通じた風土や文化の発信を行う。

2 背景

三遠南信地域の天竜川や豊川などの川筋に沿った古くからの交流は、民俗芸能をはじめとする特色ある文化を育み、文化や豊かな自然、人々の営みからは魅力ある特産品が生まれた。地域に根づいて隠れた特産品を掘り起こし、地域を伝える特産品として販路拡大と普及を行うことが求められており、平成 28 年（2016 年）3 月に特産品紹介サイト「三遠南信特産品 GUIDE」を公開した。

3 事業内容

地域性を色濃く持ち、魅力あふれる特産品を紹介するサイト「三遠南信特産品 GUIDE」を運営し、特産品情報の発信を行う。

<掲載産品数（H30（2018）.3.31 時点）>

東三河	遠州	南信州	合計
17	33	36	86

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	「三遠南信特産品 GUIDE」の運営
H31	2019	〃
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(2)-I-3
名称	三遠南信ロードマップの発行
重点プロジェクト	(2) 三遠南信圏民の一体感醸成プロジェクト
	I メディアや広報紙、SNS を活用した地域内情報の共有・浸透
実施主体	SENA

1 目的

三遠南信地域の観光情報や地域資源情報の発信を行うと共に、三遠南信自動車道の建設促進に向けた機運の醸成のため、三遠南信ロードマップを発行する。

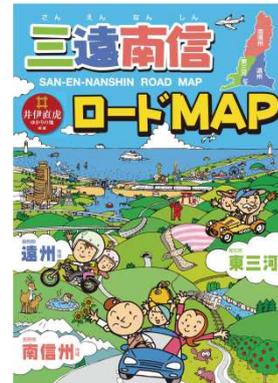
2 背景

三遠南信自動車道の建設や自立性の高い地域づくりを、地域一体となって推進するために、全体の観光情報や道路図をとらえた媒体を活用した機運の醸成が必要である。

3 事業内容

三遠南信地域全体の道路図、三遠南信自動車道の開通状況、地域の観光情報等を掲載した三遠南信ロードマップを発行する。

また、SENA 構成員を通じて地域内に配付する。



4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	三遠南信ロードマップの発行
H31	2019	〃
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(2)-I-4
名称	3市（浜松・豊橋・飯田）の広報紙を活用した情報発信
重点プロジェクト	(2) 三遠南信圏民の一体感醸成プロジェクト
	I メディアや広報紙、SNS を活用した地域内情報の共有・浸透
実施主体	浜松市・豊橋市・飯田市

1 目的

浜松市・豊橋市・飯田市の3市で意見交換を行いながら情報の共有化を図ると共に、3市の史跡や観光、イベントなどの情報を、広報紙を通じて発信し、市民がそれぞれの地域に興味を持ち、訪れてもらう。

2 背景

市民の閲読率が高い広報紙にそれぞれの地域の核となる3市の地域情報を毎月掲載し、三遠南信地域をより身近に感じてもらうことが重要である。

3 事業内容

年に数回会議の場を設け、広聴広報事業に関する研究や意見交換などを行っている。また、各市が発行している広報紙に「三遠南信ふれあいウオーク」と題した、遠州、東三河、南信州地域の観光・イベント情報の掲載（スペースは広報紙2分の1程度。現在も継続中）、2年に1回三市合同企画特集を4ページ程度掲載し、情報発信事業を行っている。

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	広報紙への三遠南信情報の掲載
H31	2019	広報紙への三遠南信情報の掲載及び三市合同企画特集の掲載
H32	2020	広報紙への三遠南信情報の掲載
H33	2021	広報紙への三遠南信情報の掲載及び三市合同企画特集の掲載
H34	2022	広報紙への三遠南信情報の掲載

具体的事業 No	(2)-I-5
名称	三遠南信テレビ番組の放送
重点プロジェクト	(2) 三遠南信圏民の一体感醸成プロジェクト
	I メディアや広報紙、SNS を活用した地域内情報の共有・浸透
実施主体	名古屋テレビ放送、静岡朝日テレビ、長野朝日放送

1 目的

三遠南信地域情報を紹介するテレビ番組を、3 県の朝日放送系列の 3 局（メ～テレ、静岡朝日テレビ、長野朝日放送）で同時放送を行い、県境を越えた三遠南信地域の情報共有を図る。

2 背景

愛知、静岡、長野の 3 県ではテレビの放送局が異なり、全国放送ではない一定の地域で放送されるローカルなテレビ番組はそれぞれ別のものが放送され、地域全体で放送されるテレビ番組がなく、三遠南信地域の情報を伝えるテレビ番組を 3 県で同時に放送することの重要性が高い。

3 事業内容

三遠南信地域の歴史・自然・食文化・観光スポット等を紹介するテレビ番組を、3 局（メ～テレ、静岡朝日テレビ、長野朝日放送）で同時放送を行う。

<過去の実績>

- ・ 第 1 回 「東三河・遠州・南信州で秋の味覚と絶景めぐり」(H25 (2013) .10.14)
- ・ 第 2 回 「三遠南信紀行 祭りばやしに誘われて」(H26 (2014) .12.23)
- ・ 第 3 回 「三遠南信紀行 賢さん松ちゃんが行く!ナゾ解き街道珍道中」(H28 (2016) .1.11)
- ・ 第 4 回 「三遠南信紀行 手つかずの絶景と直虎ゆかりの地」(H29 (2017) .1.9)
- ・ 第 5 回 「三遠南信紀行 伝統の味を喰らう ～五平餅ロード～」(H30 (2018) .1.8)

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	三遠南信テレビ番組の放送
H31	2019	〃
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(2)-I-6
名称	三遠南信をエリアとする定期刊行物（新聞の体裁）の発行（新）
重点プロジェクト	(2) 三遠南信圏民の一体感醸成プロジェクト
	I メディアや広報紙、SNS を活用した地域内情報の共有・浸透
実施主体	南信州新聞社

1 目的

三遠南信地域の県境を越えた地域間連携を後押しする、ボーダレスな情報を地域全体に届けるため、地域の行政、経済・住民団体等三遠南信に関わる者を対象とした定期刊行物を発行する。

2 背景

リニア中央新幹線や三遠南信自動車道整備の進展などにより、地域を取り巻く状況が急速に変化している状況下で、テレビ報道等、県境で地域内の多くの情報が断たれており、能動的に得ようとしめない限り、他地域の情報を得ることが難しい。

3 事業内容

三遠南信を新しい視点で捉えた定期刊行物を発行し、県境を越えた地域情報を共有できる機会を創出すると共に、関連サイトを立ち上げるなど、さらに情報発信を進める。

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	新媒体のパイロット版の発行、関連サイトの立ち上げ
H31	2019	刊行物の発行
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(2)-I-7
名称	東三河&西遠・西三河・南信 応援誌「そう」の発行
重点プロジェクト	(2) 三遠南信圏民の一体感醸成プロジェクト
	I メディアや広報紙、SNS を活用した地域内情報の共有・浸透
実施主体	春夏秋冬叢書

1 目的

三河地域、西遠地域、南信州地域の魅力を普遍的な視点で発信すると共に、地域のライターやカメラマン・デザイナーの活動の場を創出し、人材を育成・確保する。

2 背景

花祭りに代表されるように、一つの文化圏としての三河地域、西遠地域、南信州地域の情報を普遍的な視点で発信し、また地域のライターやカメラマン・デザイナーの活躍の場として、季刊誌『東三河&西遠・西三河・南信 応援誌「そう」』を平成 15 年（2003 年）から年 4 回発行している。

3 事業内容

三河地域、西遠地域、南信州地域の文化、歴史、自然等の魅力を伝える季刊誌『東三河&西遠・西三河・南信 応援誌「そう」』を発行する。

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	東三河&西遠・西三河・南信 応援誌「そう」の発行
H31	2019	〃
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(2)-I-8
名称	三遠南信地域情報発信・活用事業
重点プロジェクト	(2) 三遠南信圏民の一体感醸成プロジェクト
	I メディアや広報紙、SNS を活用した地域内情報の共有・浸透
実施主体	SENA

1 目的

3 県にまたがる三遠南信地域の産学官金などのあらゆる主体が、地域の統計データ等のエビデンスに基づき人口減少や雇用創出などの地域課題解決に向けた有効な取組を連携して行うための情報基盤を整備する。

2 背景

愛知、静岡、長野の県ごとの情報は存在しているが、県境を越えた三遠南信地域としての情報が不足しており、地域内の産学官金などのあらゆる主体が行う取組に必要な基盤がない。

3 事業内容

三遠南信地域を枠とした情報を調査・収集・分析すると共に、これらのデータによりオープンデータライブラリを構築する。また、このオープンデータライブラリを活用した各分野における各主体の取組を促進させるための普及・啓発事業もあわせて実施する。

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	地域情報の収集、オープンデータライブラリの構築
H31	2019	オープンデータライブラリの認知向上のためのイベントを実施
H32	2020	データの更新・追加、オープンデータを活用した事業の展開
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(2)-II-1
名称	三遠南信地域におけるスポーツイベントとの連携事業（新）
重点プロジェクト	(2) 三遠南信圏民の一体感醸成プロジェクト
	II 三遠南信スポーツ交流事業の実施
実施主体	SENA

1 目的

地域内外の参加者が多数集まるスポーツイベントを通じ、三遠南信地域の魅力を広く伝え、認知度を高め、人々の交流等を活性化させるため、三遠南信の特産品や地域情報を発信する。

2 背景

三遠南信地域においては、マラソンを始め、数多くのスポーツイベントが開催され、イベント参加を目的とした参加者が地域内外から多数集まってきている。

3 事業内容

通年、三遠南信地域内で広く開催され、地域内外の参加者が多数集まるマラソンイベントに焦点をあて、主催者に対し、大会への協賛について手法、負担費用、条件、効果等を検証するための調査をする。この調査結果に基づきイベント協賛を実施、特産品の提供等を通じ、三遠南信地域の魅力を幅広く発信することにより、地域内の参加者に対しては、地域をより身近に感じ一層親しみが持てるよう、地域外からの参加者に対しては、大会終了後、地域への滞在を促し、後日その地域を再訪するようなきっかけづくりを行う。

実施、検証をしながら、他のスポーツイベント等への展開を検討する。

<具体的実施内容（想定）>

- ・大会上位者や飛び番等の副賞として特産品等を提供、表彰式などで地域をPRする。
- ・エイドステーション(大会中、ランナーへ補給用の水分や食料を提供する場所)へ特産品を提供し、地域をPRする。
- ・SENAが指定した対象大会において、複数の地域の大会に参加した人を対象に、抽選（応募制）を実施、特産品等をプレゼントすると共に地域情報を提供する。

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	
H31	2019	協賛対象となるスポーツイベントの抽出
H32	2020	イベント協賛に係る調査
H33	2021	イベント協賛実施・展開の検討
H34	2022	〃

具体的事業 No	(2)-II-2
名称	こども招待チケットの配布
重点プロジェクト	(2) 三遠南信圏民の一体感醸成プロジェクト
	II 三遠南信スポーツ交流事業の実施
実施主体	フェニックス

1 目的

三遠ネオフェニックスの試合の観戦機会を創出することで、地域のスポーツ振興や地域との密着を図り、また共通のプロスポーツチームを応援することで地域への愛着や一体感を醸成する。

2 背景

少子高齢化や人口減少社会の中で、人々が健康に長寿を享受し活力ある社会を実現するために、スポーツを通じた健康増進、共生社会の実現や経済・地域の活性化など、大きな貢献が期待されている。

3 事業内容

東三河・遠州地域の小中学生に対し、東三河・遠州地域で三遠ネオフェニックスの試合が開催される際の無料招待・優待チケットを配布する。

- ・東三河 8 市町村、浜松市、湖西市

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	東三河 8 市町村、浜松市、湖西市の小中学生へ招待チケットの配付
H31	2019	〃
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(2)-II-3
名称	ジュビロ磐田と飯田サッカー協会の交流
重点プロジェクト	(2) 三遠南信圏民の一体感醸成プロジェクト
	II 三遠南信スポーツ交流事業の実施
実施主体	飯田サッカー協会

1 目的

南信州地域の子供たちの体力向上やユース世代のスキル向上のほか、プロサッカーチームとの交流を通じて視野の拡大や三遠南信地域のジュビロ磐田への応援機運向上を図る。

2 背景

プロサッカーチームの無い南信州地域においては、子どもたちがトップレベルのサッカーを生で観戦したり、サッカー技術の教育を受けたりする機会が得られなかった。

3 事業内容

ジュビロ磐田のご協力を得て、「ジュビロサッカークリニック」と題して以下の活動を実施している。

- ・ジュビロ磐田スクールの指導者と南信州の指導者で小学生のサッカースクールの開催
- ・南信州の小学生によるジュビロ磐田の試合観戦
- ・ジュビロ磐田スクールと南信州のサッカースクールのチーム交流試合

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	ジュビロサッカークリニックの開催
H31	2019	〃
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(2)-Ⅲ-1
名称	三遠南信ふるさと歌舞伎交流大会の開催
重点プロジェクト	(2) 三遠南信圏民の一体感醸成プロジェクト
	Ⅲ 地域に関する歴史や文化の共有・発信
実施主体	三遠南信ふるさと歌舞伎交流実行委員会

1 目的

三遠南信地域は民俗芸能が数多く保存継承されている地域であることから、その代表格である地芝居（素人歌舞伎）の保存会が一堂に会し上演することにより、民俗文化財に対する関心を高め保存継承の意識高揚を図ると共に、保存会間の交流を深めることにより相互協力や情報交換を通じ技術向上と保存会組織の運営強化を図る。また、県境を越えた三遠南信地域の文化交流の活性化により地域文化振興に寄与する。

2 背景

三遠南信地域は、民俗芸能の宝庫と言われるほど全国的にも貴重な文化遺産が数多く残されている。その代表ともいえる地芝居・農村歌舞伎の公演を愛知・長野・静岡3県のそれぞれの保存会が、平成6年（1994年）から持ち回りで歌舞伎交流会を毎年開催し、日頃の活動の発表、交流が行われている。

3 事業内容

三遠南信地域内の歌舞伎保存会が集まり、歌舞伎の発表や保存会相互の交流を行う、三遠南信ふるさと歌舞伎交流大会を開催する。

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	三遠南信ふるさと歌舞伎交流下條大会の開催（下條村）
H31	2019	三遠南信ふるさと歌舞伎交流大会の開催（愛知県）
H32	2020	三遠南信ふるさと歌舞伎交流大会の開催（静岡県）
H33	2021	三遠南信ふるさと歌舞伎交流大会の開催（長野県）
H34	2022	三遠南信ふるさと歌舞伎交流大会の開催（愛知県）

具体的事業 No	(2)-Ⅲ-2
名称	合唱劇「カネト」の公演
重点プロジェクト	(2) 三遠南信圏民の一体感醸成プロジェクト
	Ⅲ地域に関する歴史や文化の共有・発信
実施主体	合唱劇「カネト」をうたう合唱団、飯田「カネト」合唱団

1 目的

合唱劇「カネト」の公演を行うことで、飯田線建設に尽力した人物や当時の様子を共有し、また三遠南信地域の交流の歴史を発信する。

2 背景

愛知、静岡、長野の3県を通り、三遠南信地域を縦断する JR 飯田線の前身となる旧三信鉄道（三河川合駅～天竜峡駅）建設に尽力したアイヌ民族の技術者「川村カネト」氏の生涯を称える合唱劇「カネト」を鑑賞し、県境の急峻な地形を通る交流の過酷さと、交流を可能にした飯田線の重要性を知ることができる。

3 事業内容

合唱劇「カネト」の公演を行う。また、公演にあたっては、公演開催地の近隣住民に出演を呼びかけ、合唱団と開催地住民が一体となって「カネト」の普及を図る。

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	合唱劇「カネト」の公演（浜松市佐久間町）
H31	2019	合唱劇「カネト」の公演
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(2)-III-3
名称	「うた和舞歌」プロジェクト
重点プロジェクト	(2) 三遠南信圏民の一体感醸成プロジェクト
	III 地域に関する歴史や文化の共有・発信
実施主体	三遠南信ひとネットワーク ゆめまる

1 目的

古来より人々が受け継いできた地域同士のご縁と心の絆を、より自然な形で結び直すために、各地のイメージソング「うた和舞歌(うたわまいか) (同一メロディー・異なる歌詞)」を三遠南信全体で共有し、三遠南信の恵まれた自然と伝統工芸・芸能を通じた交流ネットワーク化を図り、職・住・遊・学の調和したライフスタイルを実現する。

2 背景

古来より人々は、天竜川の水運、街道を通じて繋がり、神事（伝統芸能）、祭祀を通じ、心の深い部分での連帯意識を共有してきた。しかし現在、神事（伝統芸能）、祭祀の継承も危ぶまれ、県境は自治体としての分断があり、教育、文化（伝統工芸・芸能）の連携がなされていない。南北を繋ぐ三遠南信道は整備途中にあり、交流人口も不十分である。地域活性の為の各種団体、NPO 法人等は点在しているが、活動内容、種別を越えての連携がなされていない。

3 事業内容

三遠南信 39 市町村の芸能、匠の技、四季、暮らし、ふるさとの風景、活動への思いを織り込んだ歌詞をそれぞれ作詞する。そして同じメロディーでイメージソング「うた和舞歌」を作成し、イメージ映像と共に音楽動画を制作する。あわせて、伝統工芸や芸能等のネットワークの拠点となりうるポイント拠点（サロン）を調査し、音楽動画を PR 動画として無償提供・共有すると共に、先行運営する「マルカワの蔵・又水（さすい）」との連携を図る。

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	「うた和舞歌」20 曲提供完了、サロン「マルカワの蔵」整備
H31	2019	「うた和舞歌」30 曲提供完了、サロン「マルカワの蔵」運営開始
H32	2020	「うた和舞歌」40 曲提供完了、新規サロン（長野県）運営開始
H33	2021	「うた和舞歌」50 曲提供完了、新規サロン（愛知県）運営開始
H34	2022	第 1 回「うた和舞歌祭」開催、新規サロン+2 拠点 運営開始

[参考]



<p>うた和舞歌 遠州地域バージョン 浜海のうた 作詞 うめたちあき 作詞(補作) 清水浩利 作曲・編曲…むたゆうじ</p> <p>風紋の 足跡を消す からっ風 光る砂音 朝ぼらけ 波しぶく 浜辺に香る ハマコウの 青紫の 花しづく かずら貝 包む小さな 手の中に 寄する波音 松葉風 浜海の風が君の 歌を運ぶ 人が好き 自然が好き 夢が好き 堆砂垣 夕日を浴びて のびる影 砂丘の空に 赤とんぼ</p>	<p>うた和舞歌 北遠地域バージョン 壬生の里うた 作詞 うめたちあき 作詞(補作) 本島あい子 作曲・編曲 むたゆうじ</p> <p>川向こう 山の日だまり カタクリの 薄紅色の 匂い風 せせらぎの 風を運んで 里山に 響く鐘の音 わらび売り 川べりに 輝き揺れる 露玉の 金色の波 ススキの穂</p> <p>※ 連鶴が いつか 君の 海を渡る 人が好き 自然が好き 夢が好き 音もなく 街道を舞い 群れをなす 命震わせ 雪の虫</p> <p>※ 繰り返し</p>
--	---

具体的事業 No	(3)-I-1
名称	三遠南信輸出連携事業
重点プロジェクト	(3)地域の稼ぐ力強化プロジェクト
	I 食農産業クラスターの形成や農産物等の販路拡大
実施主体	浜松市、豊橋市、田原市、飯田市

1 目的

三遠南信 4 市で連携し、マレーシアにおける年間を通じた農産物輸出に向けた体制を整備する。将来的には、国内生産、加工（貯蔵）、流通、海外販売に至るサプライチェーン（仕組み）を構築し、農業振興、農家所得向上に寄与する。

2 背景

人口減少により国内需要は減少傾向にある一方、世界的な日本食ブームや健康志向の高まりにより日本食材の海外需要が拡大している中、国は平成 31 年（2019 年）に輸出額 1 兆円達成を目標に掲げており、海外への販路を開拓するビジネスチャンスと考えられる。マレーシアは今後、経済発展や人口増加等の側面から有望なマーケットの一つであり、本事業の対象国としている。

3 事業内容

三遠南信 4 市で連携し、現地小売店での試食販売プロモーション、現地小売店バイヤーの産地招聘等を実施する。また、輸送コストの削減に向けた各市農産物に最適な鮮度保持技術の研究や三遠南信ブランドの認知度向上に向けた取組を進める。

<平成 29（2017 年）度取組状況>

プロモーション	販売品目	バイヤー招聘	4 市連携会議
2 回（9 月・11 月）	次郎柿・市田柿・大葉メロン・ミニトマト等	3 名／1 回（10 月）	3 回（4 月・12 月）

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	・現地小売店での試食販売プロモーションの実施 ・現地小売店バイヤーの産地招聘
H31	2019	・現地小売店での試食販売プロモーションの実施 ・現地飲食店でのプロモーションを検討
H32	2020	・現地小売店での試食販売プロモーションの実施 ・現地飲食店でのプロモーションを実施
H33	2021	マレーシア及び他国への輸出連携事業を検討
H34	2022	H33（2021）の検討結果を踏まえた対象国における輸出連携事業を実施

具体的事業 No	(3)-II-1
名称	地域通貨の導入可能性調査事業（新）
重点プロジェクト	(3)地域の稼ぐ力強化プロジェクト
	II 新技術の利活用や新産業の創出・集積
実施主体	SENA、金融機関

1 目的

グローバルでボーダレスな経済価値とは一線を画し、東京一極集中の是正に向けた地方創生の取組の一環として、地域経済の自立と活性化、住民福祉の増進、更には地域の一体感の醸成を図ることを目的に、人と人とをつなぎ地域内でお金が循環する仕組みであり、地域で発行し域内で限定流通する補完通貨として、「地域通貨」の導入可能性を検討する。

2 背景

Fintech や法整備の進展により、地域通貨の導入ハードルが下がってきており、地域通貨に取り組む事例も増加している。過去には、緊急的に発行された国主導による地域振興券、喫緊の課題としてのキャッシュレス社会への対応や、行政が発行する健康ポイントやボランティアポイントなど、新たな潮流に対して地域としてどう取り込んでいくか検討が必要である。

3 事業内容

産学官金で研究会を立ち上げ、以下について研究する。

- ①地域通貨の理念と仕組み
- ②地域通貨を取り巻く環境
(キャッシュレス、カードレス、仮想通貨、マイキープラットフォーム)
- ③行政ポイントとプレミアム
- ④実証実験と課題の整理

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	研究会の発足
H31	2019	実証実験の実施
H32	2020	課題の整理、導入に向けた研究
H33	2021	導入に向けた研究
H34	2022	〃

具体的事業 No	(3)-Ⅲ-1
名称	軽トラビジネス推進事業（新）
重点プロジェクト	(3)地域の稼ぐ力強化プロジェクト
	Ⅲ軽トラビジネスなど地域の特徴を活かしたソーシャルビジネスの促進
実施主体	SENA、各軽トラ実行委員会、大学研究機関

1 目的

地域の稼ぐ力の強化とにぎわいの創出、地産地消の促進を目的として、軽トラ市の情報発信とネットワーク化を通じて更なる活性化を図ると共に、軽トラ市及び軽トラをはじめとするモビリティビジネスの発展可能性を探る。

2 背景

三遠南信地域は農業生産が盛んな地域であり、軽トラを製造する自動車メーカーも立地している。近年、日本三大軽トラ市と称される新城市の「のんほいロット」をはじめ、多くの軽トラ市が域内で開催され、にぎわいを創出している。また、出店内容も農産物の販売のほか、食品加工販売やサービス業など業態は多様化している。

【開催か所数：17 か所、延べ日数：111 日、総来場者数：延べ 57 千人】

3 事業内容

①モビリティビジネス調査事業

軽トラ市等の事例を検証し発展可能性を調査する。

②軽トラ市情報発信事業

各軽トラ市を支援するため、軽トラ市のポータルサイトの創設など情報発信を行う。

③軽トラネットワークの構築

主催者と出店者相互の情報交流を行うと共に、道の駅や商業施設との連携を模索する。

④三遠南信軽トラ市

軽トラ市が盛んな地域としての機運を盛り上げるため、年に1回のイベント開催を検討する。

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	軽トラネットワークの構築
H31	2019	軽トラビジネスモデル調査の実施
H32	2020	軽トラ市情報発信事業
H33	2021	三遠南信軽トラ市の開催
H34	2022	〃

具体的事業 No	(3)-IV-1
名称	三遠南信地域新技術・新工法展示商談会の開催
重点プロジェクト	(3)地域の稼ぐ力強化プロジェクト
	IV産業展示会や商談会などの開催を通じた産業連携の促進
実施主体	浜松商工会議所

1 目的

三遠南信地域の企業が持つ新技術や新工法を提案・アピールし、異分野メーカーとの取引先開拓、技術的連携等へ繋げるきっかけをつくる。

2 背景

三遠南信地域は大手企業の生産拠点の海外移転などによる製造品出荷額の低下、電気自動車（EV）シフトによる基幹産業の空洞化が懸念されている。

3 事業内容

大手メーカー社内にて具体的な取引や協力関係の構築を目指した展示商談会を開催する。

<過去の実績>

- ・平成 26 年（2014 年）度／株式会社本田技術研究所 四輪 R&D センター（栃木県芳賀郡）
- ・平成 28 年（2016 年）度／トヨタ自動車株式会社（愛知県豊田市）
- ・平成 29 年（2017 年）度／コマツ 小山工場（栃木県小山市）

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	商談会の開催（横浜市）
H31	2019	〃
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(3)-IV-2
名称	SA・PA 商談会の開催
重点プロジェクト	(3)地域の稼ぐ力強化プロジェクト
	IV産業展示会や商談会などの開催を通じた産業連携の促進
実施主体	新城市

1 目的

新東名高速道路の開通、三遠南信道路の一部開通による人の流れ・交流を地域事業者の経営力強化へとつなげるため、事業所の販路拡大、観光客等の三遠南信地域への関心を深めるきっかけをつくることで、地域の活性化を目指す。

2 背景

過疎化、高齢化が進み、三遠南信地域内での消費が衰退する中、整備が進む広域交通道路網の休憩施設である SA・PA を活用し、地域の特産品をはじめとした、消費や販路拡大を目指す。

3 事業内容

三遠南信地域内の事業所を対象に、東名高速道路、新東名高速道路、中央自動車道の SA・PA への特産品の出品出展に関する商談会を開催する。

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	SA・PA 商談会の開催
H31	2019	SA・PA 商談会の開催
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(4)-I-1
名称	道の駅、SA・PA を活用した三遠南信地域の観光情報発信（新）
重点プロジェクト	(4) 三遠南信探訪プロジェクト
	I 道の駅、サービスエリア・パーキングエリア（SA・PA）を活用した地域の観光情報の発信
実施主体	SENA

1 目的

観光客の三遠南信地域内での周遊、三遠南信地域内への再訪を促進する目的で、三遠南信地域内の道の駅、SA・PA で広域的な観光情報を発信する。

2 背景

インバウンドをはじめとする三遠南信地域外から、地域内への観光誘客を促進するためには、個々の観光地の魅力のみでなく地域内の幅広い観光資源を活用し、地域全体で多様な魅力を持ったエリアであることを発信することが必要となっている。また道の駅、SA・PA は広域交通網上に配置されており、広域な観光エリアを周遊するための観光拠点の役割が求められている。

3 事業内容

SENA から広域的な観光情報を三遠南信地域内の道の駅、SA・PA に提供し、情報発信を行う。

道の駅間の情報共有・交流について検討し、一体となった観光振興策を行うきっかけづくりとする。

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	広域観光情報の提供・情報発信
H31	2019	〃
H32	2020	〃
H33	2021	広域観光情報の提供・情報発信・交流の検討
H34	2022	〃

具体的事業 No	(4)-II-1
名称	三遠南信食の祭典の開催
重点プロジェクト	(4) 三遠南信探訪プロジェクト
	II 地域内の食文化を用いた観光振興
実施主体	三遠南信食の祭典実行委員会

1 目的

三遠南信地域の「へそ」にあたる茶臼山において食の祭典を実施し、三遠南信地域の中心地域から情報発信を行い、各市町村の魅力の発信・集客増を図る。

2 背景

平成 27 年（2015 年）度に、「第 1 回 三遠南信食の祭典」を茶臼山高原にて開催し、多くの来場者に三遠南信地域のご当地グルメを体験していただいた。また、三遠南信地域の魅力を発信した。その後毎年実施している。

3 事業内容

「食」をテーマとし、三遠南信地域内の農水産物を使用したご当地グルメを集めた物産展を開催し、地域の魅力を発信しブランド力向上、地域活性化に寄与する。

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	三遠南信食の祭典の開催
H31	2019	〃
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(4)-II-2
名称	マルシェ・ド・ソラモの開催
重点プロジェクト	(4) 三遠南信探訪プロジェクト
	II 地域内の食文化を用いた観光振興
実施主体	マルシェ・ド・ソラモ事務局

1 目的

三遠南信地域の農産物、水産品、工芸品等の販売機会を創出し、地域の魅力の発信及びにぎわいと活気のある地域づくりを行うと共に、地域の特産物販売者の経営力強化を図る。

2 背景

魅力ある観光地域づくりのために必要な地域ブランドの確立には、地域独自の特産物を掘り起こし、地域内外に対して広く浸透させていく機会が重要である。その機会となる物産展は、小規模企業の振興と地域経済の活性化にも貢献し、稼ぐ力を兼ね備えた観光地域づくりに必要である。

3 事業内容

浜松市ギャラリーモールソラモにおいて、三遠南信特産市マルシェ・ド・ソラモを開催し（月 10 日程度）、三遠南信地域の農産物、水産品、工芸品等を生産・販売する事業者のPR活動や販売する機会をつくる。

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	三遠南信特産市マルシェ・ド・ソラモの開催
H31	2019	〃
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(4)-II-3
名称	三遠南信しんきん物産展の開催
重点プロジェクト	(4) 三遠南信探訪プロジェクト
	II 地域内の食文化を用いた観光振興
実施主体	三遠南信しんきんサミット事務局

1 目的

三遠南信地域内の人や企業の結びつきを強め、地域経済の活性化や広域連携発展を図るため、地域の特産品を販売する物産展を開催する。

2 背景

国による低金利政策や Fintech など金融機関を取り巻く環境が変化する中、三遠南信地域に本店を置く 9 つの信用金庫は、平成 20 年（2008 年）から地域経済の活性化のため、県境を越えた連携を継続している。全国でも類を見ない連携により今後の三遠南信の発展に寄与する。

3 事業内容

三遠南信地域に本店を置く 9 つの信用金庫（飯田・アルプス中央・浜松・磐田・掛川・遠州・豊橋・豊川・蒲郡）が共同し、「三遠南信しんきんサミット」を開催する。

サミット内で、三遠南信地域の特産物を揃えた物産展を行う。

<過去の実績>

- ・第 8 回 三遠南信（8 信金）しんきんサミット（豊橋市：H27（2015）.9.5）
- ・第 9 回 三遠南信（8 信金）しんきんサミット（飯田市：H28（2016）.11.3）
- ・第 10 回 三遠南信（9 信金）しんきんサミット（浜松市：H29（2017）.11.18）

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	第 11 回 三遠南信しんきんサミットの開催（豊橋市）
H31	2019	三遠南信しんきんサミットの開催
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(4)-II-4
名称	三遠南信五平餅サミットの開催（浜松市「北区 De まつり」）
重点プロジェクト	(4) 三遠南信探訪プロジェクト
	II 地域内の食文化を用いた観光振興
実施主体	北区 De まつり実行委員会

1 目的

各地域によって味や形が異なる様々な五平餅を通じ、浜松市北区民の三遠南信地域に対する理解度向上や、出店団体間の交流促進を図る。

2 背景

五平餅は、中部地方南部の山間部に分布する郷土料理で、その形や味は地域によって様々である。特に三遠南信地域においては、三河南部を除くほとんどの地域で親しまれ、代表する食文化といえる。

一方「北区 De まつり」においては、浜松市北区の魅力発信と市民団体の交流活性化の観点から、近隣地域への更なる波及が求められている。

3 事業内容

「北区 De まつり」会場内に、15 店程度からなる「三遠南信五平餅サミット」ブースを設け、来場者向けに販売する。あわせて、出店地域のブース内での PR や、「ゆるキャラ」を招聘する。

<H29 年度における五平餅の出店実績>

- ・浜松市内 9 店（うち北区 5 店、天竜区 4 店）
- ・東三河地域 7 店（うち新城市 1 店、東栄町 1 店、設楽町 4 店、豊根村 1 店）
- ・南信州地域 2 店（うち阿南町 1 店、下條村 1 店）

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	「北区 De まつり」会場内における五平餅ブースの設置
H31	2019	〃
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(4)-Ⅲ-1
名称	三遠南信ツーリズム推進事業（新）
重点プロジェクト	(4) 三遠南信探訪プロジェクト
	Ⅲ 自然資源や文化遺産を活用した観光客誘致
実施主体	SENA

1 目的

三遠南信地域への観光客の誘致のため、自然資源や文化遺産等の観光資源の調査や体験型プログラムの開発を行い、観光客が周遊できる仕組みの検討を行うと共に情報発信を行う。

2 背景

三遠南信地域には天竜奥三河国定公園や南アルプス国立公園などの自然資源、花祭りや霜月祭りなどの無形民俗文化財、中央構造線や鳳来寺山などの天然記念物等、多くの文化財を有する。また、平成 28 年（2016 年）に訪日外客数が 2,000 万人を突破し、観光庁の策定した「明日の日本を支える観光ビジョン」では平成 32 年（2020 年）の訪日外客数の目標値を 4,000 万人とするなど、高まるインバウンド需要を三遠南信地域に取り込むことが必要である。

3 事業内容

- ① 観光資源の調査
- ② 体験プログラムの開発
- ③ 「三遠南信”こと”ガイド」を通じた情報発信

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	
H31	2019	三遠南信地域内の観光資源の調査
H32	2020	体験型観光プログラムの開発
H33	2021	「三遠南信 “こと” ガイド」の検討
H34	2022	「三遠南信 “こと” ガイド」の作成

具体的事業 No	(4)-Ⅲ-2
名称	三遠南信地域遺産センターの設置（新）
重点プロジェクト	(4) 三遠南信探訪プロジェクト
	Ⅲ 自然資源や文化遺産を活用した観光客誘致
実施主体	SENA

1 目的

自然資源や文化遺産を活用した観光客誘致と無形・有形文化財等の保存・継承を図るため、地域の玄関口に三遠南信地域遺産センターを設置する。

2 背景

三遠南信地域には天竜奥三河国定公園や南アルプス国立公園などの自然資源、花祭りや霜月祭りなどの無形民俗文化財、中央構造線や鳳来寺山などの天然記念物等、多くの文化財を有する。

3 事業内容

三遠南信地域遺産センターの設置に向けた各種取組を行う。

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	
H31	2019	
H32	2020	
H33	2021	
H34	2022	三遠南信地域遺産センターの設置場所・内容の検討

具体的事業 No	(4)-IV-1
名称	JR 飯田線の利用促進事業
重点プロジェクト	(4) 三遠南信探訪プロジェクト
	IV鉄道を活用した周遊ルートの開発
実施主体	JR 飯田線活性化期成同盟会

1 目的

リニア中央新幹線開業を見据え、伊那谷の振興に資するため、地域が一丸となって、JR 飯田線の活性化を図る。

2 背景

JR 飯田線は、長期に亘って利用者数減少が続いており、利用促進に向けた取組が急務になっている。その一方で、駅無人化の動きを契機として、地域において駅の新たな利活用に向けた動きがあるなど、飯田線に対する地域住民の関心が高まりをみせている。

上伊那地域及び下伊那地域の市町村、広域連合、経済団体等により同盟会を構成している。

3 事業内容

- ・ イベント列車の実施
- ・ JR 飯田線の利用促進に向けたフォーラム・シンポジウム等の開催
- ・ 企業・行政等における JR 飯田線通勤の促進
- ・ 企業及び住民向け利用促進 PR 広報取組
- ・ 首都圏及び中京圏での JR 飯田線の PR 活動
- ・ 国・JR 東海等への要望活動 など

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	イベント列車の実施、その他事業の実施
H31	2019	〃
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(4)-V-1
名称	塩の道サイクルツーリズム事業（自転車旅）（新）
重点プロジェクト	(4) 三遠南信探訪プロジェクト
	V サイクルツーリズムの推進
実施主体	「塩の道サイクルツーリズム（自転車旅）」検討会

1 目的

日本海から太平洋まで約 350 km に及ぶ「塩の道」に沿ったサイクリングルートを構築し、活用することで、広域でのサイクルツーリズムを推進する。

2 背景

日本海から千国街道、太平洋から秋葉海道・身延街道など「塩の道」が長野県で結節。三遠南信自動車道、中部横断自動車道の開通により、既存の国道は大型車等の交通量の減少が見込まれるため、自転車にとって快適な道になり得る。また、本州の中で一番幅広で、日本の原風景を体感しながら分水嶺を越える約 350km の横断ルートは、日本を代表するルートとして、海外からの誘客にもつながると考えられる。

3 事業内容

- ・民間事業者を主体とした「塩の道サイクルツーリズム（自転車旅）」協議会の設置
- ・「塩の道」に沿ったサイクリングルートの構築
- ・サイクリングルートを活用したイベントの検討

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	「塩の道」サイクリングルートの検討・構築
H31	2019	〃
H32	2020	「塩の道」サイクリングルートを活用した事業の実施
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(5)-I-1
名称	県境域スポーツ交流会の開催
重点プロジェクト	(5) 中山間地域が輝くプロジェクト
	I 県境地域での観光振興や交流連携事業の推進
実施主体	愛知・長野県境域開発協議会

1 目的

愛知、長野県の県境における、阿南町、売木村、天龍村、根羽村、豊根村の住民の相互交流を通じて、それぞれ「むら」や「まち」を見通し、県境域開発のきっかけと、エネルギーづくりに寄与する。

2 背景

愛知・長野県の県境に接する市町村が、相互の情報交換や交流を通じて開発・振興を図ることにより、県境という地理的条件を克服して新しい地域づくり、山村づくりを目指し、愛知・長野県境域開発協議会を昭和 52 年（1977 年）に設置した。

協議会内に、道路交通部会、産業振興部会、住民交流部会を設置し、それぞれ活動を行っている。

愛知・長野県境域開発協議会の参加者は、長野県下伊那郡阿南町、売木村、天龍村、根羽村、愛知県北設楽郡豊根村の 5 町村（平成 30 年（2018 年）4 月 1 日現在）

3 事業内容

5 町村の住民が参加する、スポーツ交流会を開催する。なお開催については 5 町村で検討の上決定する。

<H29（2017）の種目>

フットサル、ソフトバレー、ゲートボール、少年野球、弓道

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	スポーツ交流会の開催
H31	2019	〃
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(5)-I-2
名称	県境域文化交流会の開催
重点プロジェクト	(5) 中山間地域が輝くプロジェクト
	I 県境地域での観光振興や交流連携事業の推進
実施主体	愛知・長野県境域開発協議会

1 目的

愛知、長野県の県境における、阿南町、売木村、天龍村、根羽村、豊根村の住民の相互交流を通じて、それぞれ「むら」や「まち」を見通し、県境域開発のきっかけと、エネルギーづくりに寄与する。

2 背景

愛知・長野県の県境に接する市町村が、相互の情報交換や交流を通じて開発・振興を図ることにより、県境という地理的条件を克服して新しい地域づくり、山村づくりを目指し、愛知・長野県境域開発協議会を昭和 52 年（1977 年）に設置した。

協議会内に、道路交通部会、産業振興部会、住民交流部会を設置し、それぞれ活動を行っている。

愛知・長野県境域開発協議会の参加者は、長野県下伊那郡阿南町、売木村、天龍村、根羽村、愛知県北設楽郡豊根村の 5 町村（平成 30 年（2018 年）4 月 1 日現在）

3 事業内容

5 町村の住民が参加する、文化交流会を開催する。なお開催については 5 町村で検討の上決定する。

<H29（2017）の実績>

参加団体：14 団体、81 名

演目内容：和太鼓、民謡、よさこい、詩吟、ハーモニカ、大正琴、二胡

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	文化交流会の開催
H31	2019	〃
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(5)-I-3
名称	おいでんスタンプラリー事業
重点プロジェクト	(5) 中山間地域が輝くプロジェクト
	I 県境地域での観光振興や交流連携事業の推進
実施主体	愛知・長野県境域開発協議会

1 目的

長野県と愛知県の県境域に位置する構成 5 町村(阿南町、天竜村、根羽村、売木村、豊根村)にある公共施設に、多くのお客様が訪れて地域の魅力を存分に味わい、リピーターとして定着してもらうために、スタンプラリースポットを設置する。

2 背景

愛知・長野県の県境に接する市町村が、相互の情報交換や交流を通じて開発・振興を図ることにより、県境という地理的条件を克服して新しい地域づくり、山村づくりを目指し、愛知・長野県境域開発協議会を昭和 52 年(1977 年)に設置した。

協議会内に、道路交通部会、産業振興部会、住民交流部会を設置し、それぞれ活動を行っている。

愛知・長野県境域開発協議会の参加者は、長野県下伊那郡阿南町、売木村、天龍村、根羽村、愛知県北設楽郡豊根村の 5 町村(平成 30 年(2018 年)4 月 1 日現在)

3 事業内容

5 町村の指定施設を訪れスタンプを収集する、スタンプラリーを開催し、参加者に 5 町村を周遊してもらい地域ごとの魅力を堪能してもらう。

なお開催については 5 町村で検討の上、決定する。

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	スタンプラリーの開催
H31	2019	〃
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(5)-I-4
名称	峠の国盗り綱引き合戦の開催
重点プロジェクト	(5) 中山間地域が輝くプロジェクト
	I 県境地域での観光振興や交流連携事業の推進
実施主体	天竜商工会水窪支部、飯田商工会議所遠山郷支部

1 目的

青崩峠、兵越峠に支えられ生活してきた浜松市（旧水窪町）と飯田市（旧南信濃村）の住民が一体となって「峠」を見つめ直し、いま一度「峠」のもつ意味を考えると共に、行政の壁を乗り越え、豊かな大自然を甘受する山里の再生と過疎の悩みの克服を目指す。

2 背景

浜松市（旧水窪町）と飯田市（旧南信濃村）は、かつて生活道路として遠州灘の海の幸・信州の山の幸が行き交う「塩の道」の分水嶺であった青崩峠・兵越峠を隔てて隣接しており、遠州と信州を結ぶ街道の宿場町として栄え、人と物の交流が盛んであったが、時代と共につながりが薄れてきた。昭和 62 年（1987 年）には、声高らかに山村生活の素晴らしさを謳い、全国に情報を発信するため「峠のシンポジウム」を開催し、個性的な企画で地域を活性化させようとイベントの一環として国盗り綱引き合戦を開催した。

3 事業内容

天竜商工会水窪支部青年部（旧水窪町商工会青年部）と飯田商工会議所遠山郷支部綱引き部（旧南信濃村商工会青年部）による峠の国盗り綱引き合戦を開催する。

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	峠の国盗り綱引き合戦の開催
H31	2019	〃
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(5)-I-5
名称	中山間地域山盛りアドベンチャー事業（新）
重点プロジェクト	(5) 中山間地域が輝くプロジェクト
	I 県境地域での観光振興や交流連携事業の推進
実施主体	浜松市

1 目的

中山間地域への訪問を促し、都市部と中山間地域の住民の交流を深めると共に、中山間地域のにぎわいを創出するため、中山間地域をゲーム感覚で回遊するイベントを開催する。

2 背景

- 中山間地域の振興には都市部から中山間地域への人の流れをつくることが重要であり、地域住民との交流や地域の歴史・文化など総合的な理解を深める機会が必要である。
- REASAS 分析によれば、天竜区の 8 月の休日午後 2 時の滞在人口約 27 千人のうち、20% が天竜区以外の市内からの滞在中、県内市外からは 3%、県外からは 7%、主に隣接する東三河地域、奥三河地域からの滞在中である。
- 休日の天竜区外からの滞在中は、主として観光や買物による移動が主であると考えられ、市内及び隣接地域からの交流人口の増加を図ることが有効と考えられる。

3 事業内容

- 市内の小学生～大人を対象とし、中山間地域を舞台にした謎解きゲームを開催する。



4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	浜松市中山間地域山盛りアドベンチャー事業の実施 H31 (2019) 以降、エリア拡大（三遠南信地域）を含めた実施の検討
H31	2019	(仮) 三遠南信山盛りアドベンチャー事業の実施
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(5)-II-1
名称	三遠南信地域おこし協力隊等のネットワーク化（新）
重点プロジェクト	(5) 中山間地域が輝くプロジェクト
	II 地域おこし協力隊のネットワーク化支援
実施主体	SENA、関係市町村

1 目的

地域おこし協力隊の交流、連携活動を促進しネットワーク化を支援することで、地域課題の解決や、地域コミュニティの活性化を図る。

2 背景

中山間地域を抱える市町村が多い三遠南信地域では、多くの地域おこし協力隊が活動している。活動範囲が隣接する隊員や事業内容の近い隊員は個々に連携をとっているものの、三遠南信地域全体での連携はなされていない。

<三遠南信地域内の地域おこし協力隊の状況(H30(2018) .3.1現在) >

委嘱 市町村	地域おこし 協力隊	集落 支援員	復興 支援員	外部 専門家	地域おこし 企業人
29	122	57	0	1	1

3 事業内容

三遠南信地域内の市町村担当者による協議を行い、地域おこし協力隊のネットワーク化や、地域おこし協力隊の連携した取組の実施可能性を検討する。

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	地域おこし協力隊のネットワーク化の検討
H31	2019	地域おこし協力隊のネットワーク化の実施
H32	2020	地域おこし協力隊の連携した取組の実施可能性の検討
H33	2021	地域おこし協力隊の連携した取組の実施
H34	2022	〃

具体的事業 No	(5)-Ⅲ-1
名称	中山間地域公共交通の接続研究（新）
重点プロジェクト	(5) 中山間地域が輝くプロジェクト
	Ⅲ 中山間地域の移動手段確保
実施主体	SENA

1 目的

三遠南信地域の県境等を越えて接続する公共交通手段を発信・研究する。また、現在接続している広域的なダイヤ接続等に関する情報や研究結果を運行事業者等と共有することで、県境を跨ぐ公共交通の利便性確保を目指す。

2 背景

三遠南信地域は古くは天竜川や豊川等の水運、近代においては鉄道を用いた物流や文化交流が行われてきた。マイカーの普及や人口減少により、公共交通利用者が減少する一方で、リニア中央新幹線の開通により三遠南信地域の全域が高速公共交通機関まで2時間圏内となる。こうした中で、三遠南信連携の基となった広域的な公共交通手段について改めて見直す必要がある。

3 事業内容

JR 飯田線を中心とする三遠南信地域の県境を越えて運行する路線バス等の公共交通の接続等を研究し、研究結果について情報発信する。

広域的なダイヤ接続等について、研究結果を基に市町村や運行事業者と情報共有し、助言等を行う。

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	
H31	2019	三遠南信地域の広域公共交通の研究
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(5)-IV-1
名称	水源林保全のための流域共同活動（新）
重点プロジェクト	(5) 中山間地域が輝くプロジェクト
	IV 中山間地域の森林の保全や森林資源の活用の促進
実施主体	関係市町村

1 目的

三遠南信地域における上下流域の連携した住民協働による森林保全を行うことにより、持続可能な森林経営を目指すと共に地球温暖化抑止や土砂災害防止、水源涵養を図り、市民生活や産業の安定につながる水の安定的な供給を図る。

2 背景

SDGs(持続可能な開発目標)について、国は優先課題の1つとして「生物多様性、森林、海洋等の環境の保全」を掲げており、その目標を達成するためには行政・住民・企業が連携した森林経営を行う必要がある。

また、国は森林整備やその支援等に充てることを目的とした森林環境税を導入することに先立ち、平成31年(2019年)度から市町村に森林環境譲与税を譲与することとなり、具体的な用途については各市町村で検討する必要がある。

3 事業内容

- ・森林整備（植林、下刈り、徐間伐）の支援
- ・人材育成、担い手確保
- ・木材利用の促進や普及啓発
- ・圏域内の住民意識醸成
- ・水源林保全協定の検討
- ・住民協働による森林づくり活動 など

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	既存事業の調査
H31	2019	広域連携による流域共同活動の可能性検討（森林環境譲与税の譲与開始）
H32	2020	広域連携による流域共同活動の実施
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(6)-I-1
名称	三遠南信地域消防連絡会の開催
重点プロジェクト	(6)住むなら三遠南信プロジェクト
	I 市町村を越えた防災連携体制の維持・強化
実施主体	14 消防本部 38 市町村

1 目的

三遠南信地域内の消防本部相互の協調を図り、消防の情報を交換することをもって、消防の健全なる発展に寄与する。

2 背景

平成 21 年（2009 年）度から原則毎年開催（平成 23 年（2011 年）度及び平成 26 年（2014 年）度は災害の発生により中止）しており、長野県（南信州）、静岡県（遠州）、愛知県（東三河）の 3 地区において、順次持ち回りで開催している。

会員は、三遠南信地域の消防長としている。

3 事業内容

毎年 1 回定例会を開催し、申し合わせ事項に関する審議や消防諸般における情報提供、情報交換を行う。

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	定例会の開催（長野県）
H31	2019	定例会の開催（静岡県）
H32	2020	定例会の開催（愛知県）
H33	2021	定例会の開催（長野県）
H34	2022	定例会の開催（静岡県）

具体的事業 No	(6)-I-2
名称	三遠南信災害時相互応援協定に基づく支援事業（新）
重点プロジェクト	(6)住むなら三遠南信プロジェクト
	I 市町村を越えた防災連携体制の維持・強化
実施主体	6ブロック 27 市町村

1 目的

三遠南信地域内に災害が発生した場合に、各都市相互の応援による応急措置等を円滑に遂行するため、情報伝達、支援・受援に関する訓練を実施する。

2 背景

中山間地域を抱える市町村が多い三遠南信地域で想定される土砂災害や、大きな被害が予想される南海トラフ地震などの災害が発生した場合には、救助に向かう交通路が遮断されるなど、被災自治体のみでの対応することが困難な場合がある。

3 事業内容

三遠南信地域内の市町村担当者による協議を行い、物資、職員の派遣・受入や情報伝達などの連携した訓練について検討する。

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	協定に基づく実践的な訓練内容（受援・支援）の検討
H31	2019	協定に基づく実践的な訓練の実施・検証
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(6)-I-3
名称	浜松市消防ヘリコプターによる航空消防応援協定
重点プロジェクト	(6)住むなら三遠南信プロジェクト
	I市町村を越えた防災連携体制の維持・強化
実施主体	浜松市、6消防本部

1 目的

三遠南信地域において消防ヘリコプターを必要とする災害が発生した際に、浜松市消防ヘリコプターを活用して応援することにより被害の軽減を図る。

2 背景

平成 21 年（2008 年）度から浜松市と三遠南信地域の消防本部との間で、順次協定を締結した。

なお、上伊那広域連合は、すべての自治体が三遠南信地域に含まれていなかったため、締結していない状況であったが、平成 29 年（2017 年）4 月に上伊那広域連合が管轄するすべての地域が三遠南信地域に加盟したことにより、平成 30 年（2018 年）度に協定を締結する予定である。

3 事業内容

三遠南信地域において消防ヘリコプターを必要とする災害が発生した際に、協定に基づき、浜松市消防ヘリコプターを活用して浜松市が応援する。



4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	上伊那広域連合を対象地域に追加 有事の際の協定に基づく応援
H31	2019	有事の際の協定に基づく応援
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(6)-II-1
名称	三遠南信移住促進事業（新）
重点プロジェクト	(6)住むなら三遠南信プロジェクト
	II 地域連携による婚活事業や移住・定住支援事業の実施
実施主体	SENA、関係市町村

1 目的

移住希望者を対象に、広域連携によるスケールメリットを活かした移住・婚活支援の取組を実施することで、三遠南信地域の人材確保を進める。

2 背景

平成 28 年（2016 年）に全国の年間出生数 100 万人を下回るなど人口減少・少子高齢化が進み、全国の各市町村では人口減少を抑制するため、移住・婚活支援を推進している。三遠南信地域でも、首都圏からの交通利便性や平均寿命の高さなどの強みを生かした移住支援や出会いの場を創出する婚活支援の取組が求められている。

3 事業内容

三遠南信地域内の各市町村が実施する移住事業について SENA ホームページを活用し、情報発信を行う。

地域内の市町村が連携し、地域内の未婚者と大都市の未婚者をマッチングし、結婚後の三遠南信地域への移住を前提とした婚活イベントを開催する。

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	事業実施可能性の検討
H31	2019	移住促進事業の実施
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(6)-Ⅲ-1
名称	三遠南信地域女性交流
重点プロジェクト	(6)住むなら三遠南信プロジェクト
	Ⅲ女性が暮らしやすく、働きやすい地域づくりの推進
実施主体	浜松市、豊橋市、飯田市

1 目的

三遠南信地域の女性たちの相互理解を深め、地域における男女共同参画の意識を高め合うため、住民自治への女性の参加や、所属団体の地域社会での活動状況の報告等、情報交換を行う。

2 背景

男女共同参画の推進により三遠南信地域の発展に寄与するため、特に女性たちの相互理解を深める必要がある。これにより交通網整備後の交流拡大に備える。活動事例の報告や情報交換によって、三遠南信地域への関心を高めると共に、地域自治への女性の参加や社会活動の参考となり、動機づけとなることが重要である。

3 事業内容

実施主体が年度ごと交代で学習交流会を開催し、地域自治への参加や社会活動の報告と情報交換を行う。

特に開催市の状況に関する理解を深める。

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	学習交流会の開催（飯田市）
H31	2019	学習交流会の開催（浜松市）
H32	2020	学習交流会の開催（豊橋市）
H33	2021	学習交流会の開催（飯田市）
H34	2022	学習交流会の開催（浜松市）

具体的事業 No	(6)-IV-1
名称	三遠南信住民団体交流
重点プロジェクト	(6)住むなら三遠南信プロジェクト
	IV県境を越えた住民交流機会の創出
実施主体	三遠南信住民ネットワーク協議会

1 目的

三遠南信地域内で活動する NPO、住民団体等が、相互に交流・連携し、情報の共有・発信及び新しい事業展開の可能性を検討する。また、地域の行政機関や経済団体など諸団体と連携して三遠南信地域の活性化を図る。

2 背景

三遠南信地域の住民団体が連携し、継続的な情報共有・発信等を行うことが非常に重要であるとの認識から、三遠南信サミット住民セッションでは、住民団体ネットワークとなるプラットフォーム組織の必要性について議論がされ、平成 24 年（2012 年）6 月に三遠南信住民 NW 協議会を設立した。

3 事業内容

- ・構成団体相互の交流・連携に係る事業
- ・主要国道、県道等の「祭り街道」拡大の機運づくり
- ・歴史文化等の地域資源収集と情報発信推進事業
- ・地域の行政機関や経済団体に対して必要な提言活動

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	住民団体相互の交流、情報発信、事業の検討
H31	2019	〃
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(6)-IV-2
名称	三遠南信文化交流合唱の集い
重点プロジェクト	(6)住むなら三遠南信プロジェクト
	IV県境を越えた住民交流機会の創出
実施主体	浜松合唱連盟、豊橋合唱協会、飯田下伊那合唱連盟

1 目的

三遠南信地域の市民文化交流の拡大に資すると共に、地域の合唱団の技術向上を図るため、浜松、豊橋、飯田の3地域の合唱団による合同演奏会を行う。

2 背景

それぞれの合唱を互いに披露することによる合唱技術の向上と、住民の合唱を通じた交流拡大の場として、平成10年（1998年）から各合唱団の合同演奏会が開催されている。

3 事業内容

年1回、浜松、豊橋、飯田の3地域の合唱団体が合同で演奏会を開催する。

<過去の実績>

- ・第18回 三遠南信文化交流”合唱のつどい”（飯田市：H27（2015）.9.27）
- ・第19回 三遠南信文化交流”合唱のつどい”（浜松市：H28（2016）.10.2）
- ・第20回 三遠南信文化交流”合唱のつどい”（豊橋市：H29（2017）.10.29）

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	第21回 三遠南信文化交流”合唱のつどい”の開催（飯田市）
H31	2019	三遠南信文化交流”合唱のつどい”の開催（浜松市）
H32	2020	三遠南信文化交流”合唱のつどい”の開催（豊橋市）
H33	2021	三遠南信文化交流”合唱のつどい”の開催（飯田市）
H34	2022	三遠南信文化交流”合唱のつどい”の開催（浜松市）

具体的事業 No	(6)-IV-3
名称	磐田市と駒ヶ根市の友好都市交流
重点プロジェクト	(6)住むなら三遠南信プロジェクト
	IV県境を越えた住民交流機会の創出
実施主体	磐田市、駒ヶ根市

1 目的

磐田市・駒ヶ根市の両市で各分野にわたって友好交流を広げ深め、友好交流事業の推進を図る。

2 背景

磐田市と駒ヶ根市は、約 700 年前から伝わる悉平太郎（しっぺいたろう）の伝説が縁で、古くは鎌倉時代より民間主導で友好交流が進められていた。

昭和 41 年（1966 年）には両市共に友好促進が強く要望され、友好都市提携の調印が行われた。

また、災害時には相互応援を行う災害時相互応援協定を平成 7 年（1995 年）に締結した。

3 事業内容

以下のイベントの際に、行政職員を中心に相互交流を行う。

- ・いわた大祭り（磐田市）
- ・見付天神裸まつり（磐田市）
- ・天竜かっぱ祭り（駒ヶ根市）

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	交流イベント等の実施
H31	2019	〃
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(6)-IV-4
名称	御前崎市と高森町の友好都市交流
重点プロジェクト	(6)住むなら三遠南信プロジェクト
	IV県境を越えた住民交流機会の創出
実施主体	御前崎市、高森町

1 目的

御前崎市と友好都市である長野県下伊那郡高森町における農畜産物や海産物などの特産物に加え、文化、スポーツ、観光等の交流を実施することにより、各産業の相互の発展と活性化を図る。

2 背景

平成 19 年（2007 年）9 月、御前崎市と高森町が友好都市として提携した。御前崎市は遠州夢咲牛や遠州黒豚等の畜産物とお茶やイチゴ、メロン等の農作物、カツオやシラス、金目鯛等の海産物等、海の幸、山の幸の新鮮でおいしい特産物が豊富にある。また、高森町ではりんごや梨、ぶどう等の果実や市田柿、アルプスサーモン等の特産物がある。相互の特産物の PR と消費拡大を図るため、農業団体や行政によるイベント交流を実施している。

3 事業内容

御前崎市及び高森町において開催される産業祭や花火大会等の各イベントにおいて、茶商や生産者で組織する茶業振興協議会や、市内の農業者団体である農業振興会、商工会や観光協会等により、農畜産物や海産物等の特産物の PR 販売や観光 PR を実施している。

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	交流イベント等の実施
H31	2019	〃
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(6)-IV-5
名称	牧之原市と松川町の姉妹都市交流
重点プロジェクト	(6)住むなら三遠南信プロジェクト
	IV県境を越えた住民交流機会の創出
実施主体	牧之原市、松川町

1 目的

交流を続ける長野県下伊那郡松川町と、教育文化、産業及び観光等の交流により、相互の理解と親善を深め、地域社会の発展と住民福祉の増進を図る。

2 背景

松川町とは合併前の旧相良町との間で、昭和 61 年（1986 年）に妹都市提携を締結し、それ以降、議会を始め、小学生のスポーツ交流や自治会交流、産業祭等での特産品販売など様々な交流が行われた。これらの歴史を継承し、民間による交流を支援するため、平成 18 年（2006 年）に牧之原市として姉妹都市提携を締結した。その後、災害時等の相互応援協定を締結し、両市町の防災力の向上も図っている。また、現在は、物産販売やふるさと納税の返礼品など経済的な交流にも発展している。

3 事業内容

- ・田沼意次マラソン大会（牧之原市、2 月）
- ・まきのはら産業フェア（牧之原市、11 月）
- ・ふじ祭り（松川町、12 月）
- ・松川町物産販売（牧之原市、12 月）

4 今後の見通し

年度	今後の見通し	備考
H30	交流イベント等の実施	
H31	〃	
H32	〃	
H33	〃	
H34	〃	

具体的事業 No	(6)-IV-6
名称	交流スタンプラリーの開催
重点プロジェクト	(6)住むなら三遠南信プロジェクト
	IV県境を越えた住民交流機会の創出
実施主体	田原市、設楽町、阿南町、宮田村

1 目的

田原市及び田原市の姉妹都市である設楽町（愛知県北設楽郡）、友好都市の阿南町（長野県下伊那郡）、宮田村（長野県上伊那郡）の住民交流を促し、各市町村の魅力に触れることで相互理解を深める。

2 背景

「海のまち」である田原市とその姉妹・友好都市である「山のまち」設楽町、阿南町、宮田村は環境も魅力も大きく異なる。住民が各市町村をより理解するために、住民の交流を促す施策として交流スタンプラリーを開催する。

3 事業内容

各市町村の主要交流施設をラリースポットとしたスタンプラリーを開催する。

<スタンプラリー開催実績>

年度		期間	有効応募者数	ラリースポット数
H26	2014	4月下旬～翌年2月28日	714人	設楽5・阿南2・宮田2・田原5
H27	2015	4月29日～翌年3月15日	1,030人	設楽5・阿南2・宮田2・田原5
H28	2016	4月29日～翌年3月15日	1,056人	設楽4・阿南3・宮田2・田原5
H29	2017	4月29日～翌年3月9日	1,037人	設楽4・阿南3・宮田2・田原5

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	交流スタンプラリーの開催
H31	2019	〃
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(7)-I-1
名称	三遠南信地域担当者研修会の開催
重点プロジェクト	(7) 人生 100 年時代プロジェクト
	I 地域内の学生や行政職員等の交流機会の創出・拡大
実施主体	SENA

1 目的

SENA 構成員の三遠南信地域連携担当者の理解を深め、自治体間の連携機運を醸成するため、SENA 構成員の担当者研修会を開催する。

2 背景

三遠南信地域連携を円滑にし、効果的な SEN A や各市町村の連携事業の実施のため、SENA 構成員の三遠南信地域連携担当者の知識と担当者相互の親睦を深める場として、平成 27 年（2015 年）度から SEN A 事業として隔年で実施している。

3 事業内容

2 年に 1 度、各地域の取組に関する講演や現地視察等を交えた担当者研修会を開催する。
 <過去の実績>

- ・平成 27 年（2015 年）度 SEN A 担当者研修会（H27（2015）.11.26・27：浜松市）
- ・平成 29 年（2017 年）度 SEN A 担当者研修会（H30（2017）.3.15・16：設楽町）

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	
H31	2019	SENA 担当者研修会の開催
H32	2020	
H33	2021	SENA 担当者研修会の開催
H34	2022	

具体的事業 No	(7)-I-2
名称	三遠南信教育サミットの開催
重点プロジェクト	(7) 人生 100 年時代プロジェクト
	I 地域内の学生や行政職員等の交流機会の創出・拡大
実施主体	27 市町村

1 目的

三遠南信地域の交流が進む中、教育分野における連携と活発な広域交流を推進し、県境を越えた教育連携をより一層深める。

2 背景

中山間地域を抱える市町村が多い三遠南信地域では、27 市町村に教育委員会がある。近接する教育委員会では、個々に連携が図られているが、三遠南信地域全体での連携はなされていないことから、平成 8 年（1996 年）に第 1 回三遠南信教育サミットが開催された。

3 事業内容

教育サミット開催し、開催市教育文化の紹介、3 県の代表市による事例発表会及び交流会を行う。

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	三遠南信教育サミットの開催（湖西市）
H31	2019	三遠南信教育サミットの開催（長野県）
H32	2020	三遠南信教育サミットの開催（愛知県）
H33	2021	三遠南信教育サミットの開催（静岡県）
H34	2022	三遠南信教育サミットの開催（長野県）

具体的事業 No	(7)-I-3
名称	三遠南信中学生交流事業
重点プロジェクト	(7)人生100年時代プロジェクト
	I 地域内の学生や行政職員等の交流機会の創出・拡大
実施主体	浜松市、豊橋市、飯田市

1 目的

教育交流を通して、自分のまちや学校の良さを見直す機会を提供すると共に、子どもたちのまちづくりに対する意識を深め、地域間連携の中核となって活躍する人材を育成する。

2 背景

三遠南信地域連携ビジョンが策定され、3市の交流が深まるなかで、教育における交流の推進に向けて平成11年（1999年）度から事業を実施している。また中学生の交流のほか、教員の交流についても別途実施している。

3 事業内容

浜松市、豊橋市、飯田市の中学生の交流会を開催し、「まちづくり」や「生徒会活動」についての意見交換会、施設見学及び体験活動などを実施する。

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	交流会の開催（豊橋市）
H31	2019	交流会の開催（浜松市）
H32	2020	交流会の開催（飯田市）
H33	2021	交流会の開催（豊橋市）
H34	2022	交流会の開催（浜松市）

具体的事業 No	(7)-I-4
名称	田原市と阿南町の小学校交流事業
重点プロジェクト	(7)人生100年時代プロジェクト
	I 地域内の学生や行政職員等の交流機会の創出・拡大
実施主体	田原市、阿南町

1 目的

地域の未来を創造していく子どもたちのまちづくりに対する意識を深め、地域間連携の中核となって活躍する人材を育成する。

2 背景

三遠南信地域は、山間部や沿岸部等様々な地形により成立っている。地域内の山間部の小学生は沿岸部の生活環境に触れる機会が少なく、沿岸部の小学生は山間部の生活環境に触れる機会が少ないのが現状である。

3 事業内容

山間部の阿南町の小学生と沿岸部の田原市の小学生の交流を通じて親睦を深めると共に、三遠南信地域の多様な地形や環境を学ぶことで、大きな視野で考えられる地域間連携の中核となって活躍する人材を育成する。

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	田原市と阿南町の小学校交流事業の実施
H31	2019	〃
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(7)-I-5
名称	浜松市と箕輪町の小学生交流
重点プロジェクト	(7) 人生 100 年時代プロジェクト
	I 地域内の学生や行政職員等の交流機会の創出・拡大
実施主体	庄内地区・箕輪町交流協会

1 目的

庄内地区と長野県箕輪町、遠く離れた海と山のまちの相互の魅力を伝え、また、まちの活性化に寄与する。

2 背景

昭和 30 年（1955 年）、当時庄内村にあった村櫛公民館がその活動を認められ文部大臣賞を受賞した。それをきっかけに県教育委員会が青年団活動を活発に行っていた村櫛を長野県箕輪町に紹介し、昭和 32 年村櫛と箕輪町の青年団が“山と海の町の交流”を目的とした「山と海の青年交歓会」を開催したことが交流のはじまりといわれている。

夏は山の青年が海のまちを訪れ、冬は海の青年が山のまちを訪れ、青年会員の家を分宿したり懇談会を開催したりするなど、青年を中心とした活動が活発に行われるようになった。その後小学生や大人まで活動の幅が広がり、継続して人やものの交流が行われ、平成 7 年（1995 年）には庄内地区と箕輪町の間には「友好交流推進協定」が締結された。

現在は、庄内地区・箕輪町交流協会が中心となり、双方のイベントへの参加や特産品の出店・贈呈、少年団や臨海学校など子どもたちの交流など、さまざまな活動を行っている。

3 事業内容

双方のイベントへの参加や特産品の出店・贈呈、少年団や臨海学校での子どもたちの交流等、年間を通じ、様々な活動を行う。

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	友好交流活動の実施
H31	2019	〃
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(7)-II-1
名称	副読本等を活用した三遠南信地域教育（新）
重点プロジェクト	(7) 人生 100 年時代プロジェクト
	II 三遠南信に関する地域教育の促進
実施主体	SENA

1 目的

三遠南信地域に対する愛着をもって、地域に戻ってくる、または住み続ける人材を育成するため、三遠南信地域内の小中学生に対して三遠南信地域の理解を促す教育の場を創出する。

2 背景

小中学校社会科の地域教育に関する副読本（補助教材）である「のびゆく浜松」、「かがやく豊橋」及び「私たちの飯田市」には、三遠南信自動車道と三遠南信地域に関する説明が記載されている。しかしながら、三遠南信地域に関する地域教育が十分行われていないため、三遠南信地域に対する愛着を醸成するに至っていない。また、三遠南信地域内においても、大都市への人口流出が続いている。

3 事業内容

三遠南信地域内の小中学校で扱う地域教育に関する副読本に、三遠南信に関する説明が記載されているか調査する。記載のない副読本については三遠南信に関する説明を記載するように要望する。

SENA のウェブサイトにも三遠南信地域のことが分かる資料を掲載し、それを活用してSENAから小中学校等へ出向き、地域教育講座を実施する。

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	
H31	2019	小中学校の副読本調査・三遠南信資料の作成
H32	2020	〃
H33	2021	小中学校の副読本調査検証・出前講座
H34	2022	小中学校へ副読本記載要望等・出前講座

具体的事業 No	(7)-Ⅲ-1
名称	地域で活躍する人との触れ合う場の創出
重点プロジェクト	(7)人生 100 年時代プロジェクト
	Ⅲ「産学官人財育成に向けたアクションプラン」に基づく人材の育成・定着化の推進
実施主体	SENA

1 目的

三遠南信地域において様々な分野で活躍する人の地域への想いや生き方に、学生や住民が触れ合う機会を創出することで、自らが自分自身の生き方について考えるきっかけとし、三遠南信地域の人材の育成・確保に寄与する。

2 背景

人口減少が進む社会構造の中で地域の持続性に必要な人材を確保するために、SENA では平成 24、25 年（2012、13 年）度に地域内の大学、行政及び企業による「三遠南信地域産学官人財育成円卓会議」を開催した。この会議で「三遠南信地域産学官人財育成に向けたアクションプラン」を提案し、それに基づく取組として、平成 26 年（2014 年）度に地域経営者講義の講師リストを作成した。

3 事業内容

- ・地域経営者講義の講師リストを更新し、公開する。
- ・文化人やスポーツ選手等、三遠南信地域で活躍する人を加え講師リストの充実を図る。
- ・講師リストの活用について、大学や高校等に働きかける。

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	大学や高校等に対するアンケート調査の実施、講師リストの更新
H31	2019	アンケート調査結果検証、講師リストの更新・充実
H32	2020	講師リストの活用に関する検討、講師リストの更新・充実
H33	2021	〃
H34	2022	〃

具体的事業 No	(7)-Ⅲ-2
名称	三遠南信地域の大学情報の発信
重点プロジェクト	(7)人生 100 年時代プロジェクト
	Ⅲ「産学官人財育成に向けたアクションプラン」に基づく人材の育成・定着化の推進
実施主体	SENA

1 目的

三遠南信地域内にキャンパスを置く大学の情報を発信し、地域内の高校性や社会人に大学進学先やキャリアアップの選択肢として周知することで、三遠南信地域の人材の育成・確保を図る。

2 背景

人口減少が進む社会構造の中で地域の持続性に必要な人材を確保するために、SENA 平成 24、25 年（2012、13）度に地域内の大学、行政及び企業による「三遠南信地域産学官人財育成円卓会議」を開催した。この会議で「三遠南信地域産学官人財育成に向けたアクションプラン」を提案し、それに基づく取組として、平成 26 年（2014 年）度に三遠南信地域内の大学紹介ページを作成した。

3 事業内容

三遠南信地域内にキャンパスを置く大学紹介ページを、SENA ウェブサイト内に作成する。

4 今後の見通し

年度		今後の見通し
H30	2018	大学紹介ページの更新
H31	2019	〃
H32	2020	〃
H33	2021	〃
H34	2022	〃